

# 労働映画百選通信 No.22 2017.11

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

## 労働映画鑑賞会

働く文化ネットでは、毎月第2木曜日に労働映画鑑賞会を開催しています。お気軽にご参加ください。

### 第43回 【2017年10～11月期】統一テーマ：子どもたちと仕事

- ・開催日：2017年11月9日(木) 18:00～ (参加費無料・事前申込不要)
- ・会場：連合会館 2階 201会議室(地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)

### 社会科教育映画 流れ作業

1950年/18分/白黒 製作/東宝教育映画 監督/西沢豪  
戦後の視聴覚教育運動の一環として作られた「社会科教材映画大系」シリーズの一篇。大量生産を支える「流れ作業」を、愛知県のトヨタ自動車工場で取材する。



### 労働戦士ハタラッカー 1994年/20分/カラー

製作/テレビ東京、ウッドオフィス ナレーション/田口トモロヲ  
幼児向け番組の中で放送された、職業紹介ミニドキュメンタリー。様々な職種の人々を「○○○マン」と呼んでヒーロー風に紹介。「車掌編」「大工編」を上映。



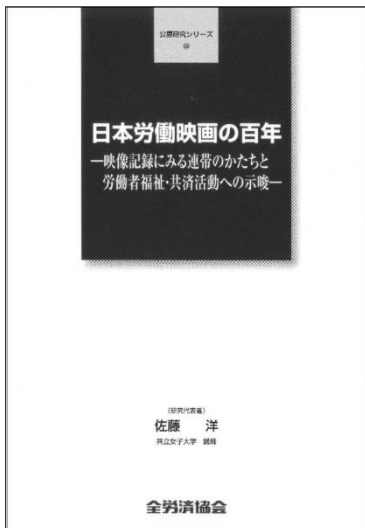
【DVD】ケー・シー・ワークス「昭和子どもキネマ」第4巻

『流れ作業』『小売店の仕事』『ラジオの役割』『わたしたちの新聞』『光にたつ子供たち』を収録

## 日本の労働映画百選 <http://hatarakubunka.net/>

『明治の日本』(1897)から『下町ロケット』(2015)まで!“働く姿”を描いた百本をセレクト

## 「日本労働映画の百年」報告書が完成



働く文化ネットと協力関係にある映画研究者たちによる『日本労働映画の百年—映像記録にみる連帯のかたちと労働者福祉・共済活動への示唆』

(全労済協会公募研究シリーズ)が完成しました。

本編51頁：労働映画についての考察研究編

別冊96頁：1895年～2016年の日本の労働映画1,468作品目録

ご希望の方は下記の要領でお申し込みいただければ、送料実費でおわけします。

### ◇申し込み方法

『日本労働映画の百年』報告書の送付希望 /

希望送付先の宛名<郵便番号、住所、氏名>

を記載したメモ(様式は自由)と郵便切手360円分(レターパック代)を同封して、下記までお申し込みください。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F  
NPO法人 働く文化ネット

【上映情報】労働映画列島！10～11月 ※《労働映画列島》で検索！<http://d.hatena.ne.jp/shimizu4310/00171103>

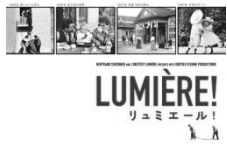


◎新作ロードショー

**鉦 ARAGANE** 《10月21日(土)から 東京 新宿 K's cinemaほかで公開》  
ボスニア・ヘルツェゴビナの炭鉦にカメラが入り込んだドキュメンタリー。地下世界で働く人々の姿を映し出す。(2015年 ボスニア・ヘルツェゴビナ=日本 監督/小田香)  
<http://aragane-film.info/>

**リュミエール!** 《10月28日(土)から 恵比寿 東京都写真美術館ホールほかで公開》  
1895年、リュミエール兄弟が発明した「シネマトグラフ」。世界各国で撮影された映像群を厳選・再構成し、4Kデジタルによる修復を施したオマージュ作品。  
(2016年 フランス 監督/ティエリー・フレモー) <http://gaga.ne.jp/lumiere!/>

**MASTER マスター** 《11月10日(金)から 東京 TOHOシネマズ新宿ほかで公開》  
イ・ビョンホン主演のクライムアクション。ネットワークビジネス詐欺で大金を奪って東南アジアへ高飛びした男と、知能犯罪捜査班の刑事との攻防。  
(2016年 韓国 監督/チョ・ウイソク) <http://master-movie.jp/>



◎名画座・特集上映

【イオンシネマ小樽ほか全国39館】9/30～12/21「イオンシネマ シネフィルセレクション」  
…ぼくの伯父さん/アンダーグラウンド/シェフ 三ツ星フードトラック始めました/他  
▼北海道・東北



【新千歳空港ターミナルビル】11/2～5「第4回 新千歳空港国際アニメーション映画祭」  
…Out in the Open(オーストラリア)/HAVE A NICE DAY(中国)/他  
▼関東・甲信越



【東京 神保町シアター】10/21～11/24「植木等と渡辺プロダクションの映画」  
…ニッポン無責任時代/若い仲間たち うちら祇園の舞妓はん/他

【東京 早稲田松竹】10/28～11/3「イラン社会を映し出す巨匠たち」  
…人生タクシー/セールスマン(2本立)

【東京 ラピュタ阿佐ヶ谷】10/22～12/23「豊かに実る 松竹文芸映画の秋」  
…あなた買います/気違い部落/雪国/他

【東京 京橋 フィルムセンター】11/9～23「逝ける映画人を偲んで 原節子選集」  
…東京の女性/緑の大地/北の三人/わが青春に悔なし/他

【茨城 瓜連 あまや座】※10/14オープン 11/4～10 幸福の黄色いハンカチ 他  
【新潟 シネ・ウインド】10/28～11/3「新潟ドイツ映画祭2017」

…わすれな草/人類遺産/みつばちの大地  
▼東海・北陸



【名古屋シネマテーク】10/21～11/3「特集・三里塚とあの時代」  
…日本解放戦線 三里塚の夏/三里塚 辺田部落/三里塚のイカロス/他

▼関西  
【京都文化博物館】10/28～11/3「第9回 京都歴史カ国際映画祭」  
…リュミエール!/キンチュム 奇跡の競走馬/車夫遊俠伝 喧嘩辰/他

【宝塚シネ・ピピア】10/28～11/3「第18回 宝塚映画祭」  
…限りなき前進/久遠の笑顔/小早川家の秋/流れる/他

【大阪 九条 シネ・ヌーヴォー】11/3～10「未来という過去 映画で知る歴史」  
…バナナ・パラダイス/玄海灘は知っている/月ほどっちに出ている/他

▼中国

【広島市映像文化ライブラリー】11/1～23「杉村春子没後20年・映画と文学座」  
…次郎物語(1941年版)/晩菊/豚と軍艦/反逆児/他

▼四国

【高知 ウィークエンドキネマM】※10/7オープン 0.5ミリ/溝口健二特集/他

【松山 シネマサンシャイン大街道】11/18～12/10「松山映画祭」  
…パレードへようこそ/箱入り息子の恋/湯を沸かすほどの熱い愛/他

▼九州・沖縄

【福岡市総合図書館 シネラ】11/1～26「小林正樹監督特集」  
…この広い空のどこかに/人間の条件/上意討ち 拝領妻始末/燃える秋/他



【作品ガイド】**ジュリーと恋と靴工場** Sur quel pied danser

2016年/84分/カラー フランス

脚本・監督/ポール・カロリ、コスティア・テスチュ 音楽/オリヴィエ・ダヴィオ ほか  
出演/ポーリーヌ・エチエンヌ、オリヴィエ・シャントロー、ロイック・コルベリー

2017年9月23日公開 東京・新宿ピカデリーほかで上映中

<http://julie-kutsu.com/>

《フランスの田舎町に住むジュリーは、就職難を乗り越え、なんとか高級靴工場での試験採用を手にした。ところが工場は、近代化の波を受けて閉鎖の危機に。ここで長年働いてきた靴職人たちは、大昔に開発された赤い靴“戦う女”を復活させて、工場の再生を目指す……。ポップで小粋なフレンチ・ミュージカル。》

**歌って踊って労働争議！フランスならではの社会派ミュージカル・コメディ** 文:波多楽久

ふだんは古い日本映画ばかり見ていて、洋画のことはあまり知らないのですが、この映画はチラシを手にした時から「必ず見なくちゃ！」と思っていました(´\_`)ところが、劇場公開後に流れてくる評判は、《ミュージカル映画としてはテンポが…》《恋愛映画としてもイマイチ…》と、厳しいもの多くてちょっと心配に。で、実際に見てみたらわかりました。内容はまぎれもなく**社会派の労働映画**。それをミュージカル、いやむしろオペレッタ(軽歌劇)の形式で諷刺たっぷりに描いていて、これはもう個人的に**大好物な映画**！シネコンに来たお客さん(カップルもチラホラ)の立場になってみると、「ミュージカル」と聞いてデミアン・チャゼル監督の『ラ・ラ・ランド』(2016)を期待したのに、中身はダルデンヌ兄弟の『サンドラの週末』(2014)だった……というくらいの落差を感じたかも知れず、それはそれでお気の毒だっただと思います。でも、田舎の工場でエプロン姿のおばちゃんたちがキレのいいダンスを繰り広げる映画って、やっぱりステキなんです！

舞台となる町はフランス南東部のロマン・シュル・イゼール。中世から皮なめし職人が定住し、産業革命以後は靴の産地として発展。工場に多くの労働者が集まり、同時に強力な労働組合運動でも知られた土地柄とのこと。老舗の高級靴メーカー「ジャック・クチュール」の工場に勤務するおばちゃん職人たちは、本社が「近代化」の方針を打ち出すや否や、即座に自分たちがリストラされると察知し、争議団を結成してパリに押しかける。日本人とは比べものにならない「**労働者意識**」の高さに驚かされます。一方、物語の主人公となる倉庫係助手のジュリーは、「正社員」になれるならどんな仕事でもいい、という動機でやって来た「今どき」の女の子。前のアルバイト先の安売店でもらった赤いスニーカーを履き、勤め先が世界的に有名なブランドだということすら知らなかった彼女は、**若者の失業率が10%以上**といわれるフランスの今を象徴する存在。誇り高き先輩たちとの間の「労働者意識」のギャップの大きさが、隠された見どころになっていくのです。

パリの本社で争議団を出迎えたのは、若くてセクシーなイケメン会長。コスト削減のために工場をアジアに移すことを考えているが、彼も「**今どき**」の勝ち組らしく、職人たちと正面衝突したりしない。「♪メルシー、メルシー、君たちの技術はすばらしい」といった具合に相手を褒めちぎり(褒め殺し)、「今度ゆっくり話し合しましょう」との逃げ口上で追及をかわす。もちろん実際には労使交渉など行われず、会社側は工場の閉鎖に向けて実力行使。打ち捨てられた工場で社員たちが立ち尽くす中、ただひとりジュリーだけが、残された靴を箱にしまい続ける。「私は仕事がしたいの！それだけ…」そんな時、ジュリーが手にした古いサンプル、赤いエナメルのダービー・シューズを見て、社長秘書のソフィーが呟く。「1965年のモデル、“**戦う女**”よ！」

のちに恋人になる男、トラック運転手のサミーに名前を尋ねられたジュリーが「シンデレラよ」と答えるのをはじめ、女性と靴との「長いつきあい」が物語りに化学変化をもたらしていく展開がとても良かったです。靴箱から“戦う女”を取り出した女性は、誰もがその美しさに心を奪われ、工場の存続を支援する輪が広がっていく。そして、“戦う女”のテーマソングとして唄われる「♪**マダム、選ぶのはあなた**」という歌詞の通り、それまで正社員に「**選ばれる**」ことに必死だったジュリーも、ようやく自らの未来を「**選ぶ**」ことができるまでに成長する。人生で大切なのは夢か、安定か……などという次元を軽々と飛び越えていく**視野の広さ**が、超大作ミュージカル映画にも負けないスケールを生み出していると思いました。

ハリウッドに比べたら小ぶりだけど、中身はぎっしり詰まったミュージカル映画…実は日本も得意なんです。片岡千恵蔵主演のオペレッタ時代劇『鴛鴦(おしどり)歌合戦』(1939、監督・マキノ正博)や、フランキー堺・雪村いづみ共演のサラリーマン・ミュージカル『君も出世ができる』(1964、監督・須川栄三)など、今見ても新鮮な作品があります！そして、現代の日本社会を描いたミュージカル映画も、今後ぜひ作ってほしいです。

【労働映画のスターたち】第25回「鶴田浩二」 文：百永良武

「古い奴」こそ新しい！いま見直したい「めんどくさい上司」の足跡

「古い奴だと思いでしょが、古い奴こそ新しいものを欲しがるのでございます…」

1970年発売の大ヒット曲『傷だらけの人生』でお馴染み、「戦中派スター」の代表格・鶴田浩二。今年で没後30年となるが、同じ1987年に亡くなった「戦後派スター」石原裕次郎が様々な形でリバイバルされているのに比べると、いささか寂しい気もする。義理と人情を体現してきた「古い奴」なのは間違いないが、むしろ今見直してみると、仁義を重んじ「筋を通す」ことに命まで賭ける姿は、かえって新鮮に映る。戦後世代の総理大臣を筆頭に「筋を通す」ことを知らないオトナたちが跳梁跋扈し、「右も左も真っ暗闇」な現在こそ、「古い奴」に学ぶことは多いのではないだろうか。

1924(大正13)年生まれ。戦後日本映画の大スターとしての活躍をリアルタイムで知る人は、もはや40代以上に限られる。私自身も、最初に彼のことを知ったのはNHKドラマ『男たちの旅路』(1976～82)だった。警備会社を舞台に、「今どきの若いヤツ」と常に対立する「古い奴」=吉岡司令補は、水谷豊、桃井かおりなど当時の「若手」の視点から見れば「めんどくさい上司」そのもの。青春時代が戦争と重なっていた彼の目から見れば、平和で豊かな時代の人間はどこか甘えているように映る……ニヒルと頑固さが複雑に同居する姿は、同じく「大正生まれ」の母方の伯父を連想させた。

シリーズ初期には若者たちの「天敵」として恐れられていた吉岡司令補だが、警備の現場で様々な事件を経験するに従って、次第にカドが取れていくのが魅力的だった。繁栄から取り残された老人たち、孤独な少女、バリアだらけの社会で葛藤する障害者たち……対立したり、ともに悩んだりしながら、「古い奴」も長年身に着けていた鎧を脱いでいく。第12話『車輪の一步』(1979)では、車椅子の青年に向かって「迷惑をかけることを恐れるな」とアドバイスするに至る。シリーズを見続けてきた視聴者みんなが納得できる形の、主人公の「成長」が描かれた瞬間だった。

脚本家の山田太一は、鶴田自身が語った半生をそのままキャラクター造形に生かしたそうで、鶴田のフィルモグラフィーもまた、海軍航空隊で敗戦の日を迎えた彼自身の人生観が色濃く反映されていることに気づく。1949年にデビューし、美男スターとして人気絶頂の最中に会った映画『雲ながる果てに』(1953、監督・家城巳代治)で特攻隊員の青春を演じたことが、その後の歩みに決定的な影響を及ぼした。「お国のために」死ぬことを志願した若者が、「生きる意味」を実感した直後に突撃を命じられる残酷さを、日本人には決して忘れてもらいたくない……という願いは、その後もしばしば彼が演じるキャラクターに投影されていく。

「戦争映画」は鶴田のライフワークの一つとなるが、その役柄には、単に「カッコいい」だけでは片付けられない奥行きが生まれた。フィリピン戦線を舞台にした映画『日の果て』(1954、監督・山本薩夫)では、脱走した戦友の銃殺を命じられた中尉が、ジャングルの中で生死と善悪の狭間を彷徨い続ける姿が印象的。2.26事件を描いた『銃殺』(1964、小林恒夫)や、特攻作戦の生みの親・大西瀧治郎海軍中將に扮した『あゝ決戦航空隊』(1974、山下耕作)などでも、部下の兵に慕われている「好人物」が軍隊組織の闇に呑み込まれ、やがて無念な結末を迎えるまでを熱演している。

1963年には『人生劇場 飛車角』(監督・沢島忠)が大ヒットし、以後10年にわたる「任侠映画」ブームを、高倉健や藤純子などと共に牽引していく。『博徒』『博奕打ち』『兄弟仁義』などのシリーズで、一宿一飯の恩義に報いるため体を張る侠客を演じ続けたが、「渡世人」の男たちも、組織の掟の中で生きる「兵隊」であることに変わりはなく、「白いもんでも黒いと言わなくちゃならねえ」(『博奕打ち 総長賭博』1968、山下耕作)理不尽な世界で孤独に戦う姿は、高度経済成長期の「企業戦士」をはじめ、三島由紀夫から全学連までもが熱狂したと言われた。

親しいスタッフや後輩から《おやっさん》と慕われる一方、嫌いな相手とは一切口をきかないなど、気難しさでも有名だったが、彼が最後に主演した『シャツの店』(1986、NHK)は、そんな「めんどくさい」一面を全開させた抱腹絶倒の人間喜劇。頑固一徹の洋服職人が、亭主関白に耐えかねた妻(八千草薫)に家出されて狼狽する。ミシンの前にぼんやりした顔で座り、「俺のどこがいけないってんだ…」と呟く姿がたまたまチャーミング。「男らしさ」を追求し続けてきた彼ならではの、見事な集大成となった。



お茶漬の味 (1952)



日の果て (1954)



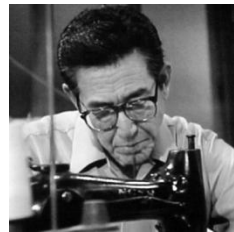
博奕打ち 総長賭博 (1968)



あゝ決戦航空隊 (1974)



男たちの旅路 (1976)



シャツの店 (1986)